

— 学校で学ぶ ・ 家庭で生きる ・ 地域で創る これが上鷺宮 —



上鷺宮

「自然といのちを守る学校」

[http:// nk-kamisagi-e.a.la9.jp/](http://nk-kamisagi-e.a.la9.jp/)

開校39年

No.432

平成29年度

学校だより 9月号

中野区立上鷺宮小学校

校長 堀 聡明

TEL 3926-6381

思いやりの心を

校長 堀 聡明

元気いっぱい「お早うございます」とあいさつをする子どもたち。夏休みの課題を大切に持ってくる子や夏休み中の楽しいことを笑顔いっぱいに話してくれる子がいました。今日から授業が再開です。教育活動へのご理解ご協力をよろしく願います。

サッカーの試合をテレビで見ながら、だいぶ前の「なでしこジャパン」のワールドカップ優勝のことを思い出しました。このことは保護者や地域の皆様も感動された記憶がある方も多いのではないのでしょうか。決勝戦では、先制され追いつき、引き離されまた追いついた試合は、手に汗を握りテレビに向かって大きな声で応援していました。PKで優勝を決めた瞬間は、思わずガッツポーズをして歓喜の声をあげことを覚えています。「苦しい時は私の背中を見て」と言った澤選手の言葉は、素晴らしいの一言です。報道から感じる選手や監督の表情や言葉からは、仲間を信頼してプレーしている、選手を信じて任せていると感じました。優勝できたのも高水準の技術もありますが、あきらめない、でも仲間を思いやる気持ちを忘れないというメンタ

ルの高さも大きな勝因だろうと思います。

「思いやり」という言葉を夏休み中に何回も見て、感じた夏でもありました。甲子園での高校野球で勝ったチームが相手の健闘をたたえ、負けたチームが勝ったチームに「さらになんばれ」とエールを送る様子、学校の夏季の水泳指導でどちらが先に入るか譲り合っている風景、テレビの報道番組で思いやる心があれば争うことがなかったのと言ったコメンテーターの言葉、など多くのことを考えさせられました。

今コミュニケーション能力を育てることが求められています。コミュニケーションの根底にあるのは、思いやる心・思いやる言動です。子どもの時から、人と人が言葉を通じ、相手の思いを理解することを教え、身に付けさせることが大切であると考えます。「なでしこジャパン」のチームの信頼関係もこの思いやりが、もとになっていたのではないのでしょうか。

「思いやる子」、これは本校の教育目標の一つです。体力の増進や粘り強い心の育成と同時に、思いやる心に力を入れてこれからの学習活動や運動会をはじめとする学校行事を進めていきたいと考えます。

9月の生活目標

じょうぶな体をつくろう